

2024年度 長野県指名強化審判研修会 報告書

長野県審判委員会

- 1 趣 旨 T級及び1級インストラクターから指導を受け、上級審判員を目指す審判員の意識の高揚と改革をねらい、強化を図る。
- 2 テーマ 「ヘルプディフェンスレフェリング」
- 3 期 日 2024年7月27日(土)・7月28日(日)
- 4 大会名 長野県総合バスケットボール選手権大会 2日目・最終日
- 5 会 場 諏訪市清水町体育館(27日・28日) A・Bコート
長野県立岡谷南高等学校(27日) C・Dコート
- 6 日 程
7/23(火) 19:00～20:00 オンライン研修会

7/27(土)
9:30～(男子G) 実技Ⅰ(玉木氏)
11:00～(男子G) 実技Ⅱ(山内氏)
11:00～(男子G) 実技Ⅲ(関口氏)
12:30～(女子G) 実技Ⅳ(玉木氏)
14:00～(男子G) 実技Ⅴ(山内氏)
14:00～(男子G) 実技Ⅵ(関口氏)

7/28(日)
9:30～(女子G) 準決勝 実技Ⅶ(山内氏)
11:00～(男子G) 準決勝 実技Ⅷ(関口氏)
11:00～(男子G) 準決勝 実技Ⅸ(玉木氏)
12:30～(女子G) 3位決定戦 実技Ⅶ(山内氏)
- 7 講 師 T級IR 関口 久視 氏 T級IR 玉木 彰治 氏
1級IR 山内 正隆 氏
- 8 参 加 者 令和6年度 長野県重点・強化審判員 21名

9 研修会

I. オンライン研修会【7月23日（火）19：00～】

【研修内容】

関口氏よりテーマである「ヘルプディフェンス」について講義があり、受講生からの Clip を解説、分析、受講生の質問に答えて頂いた。

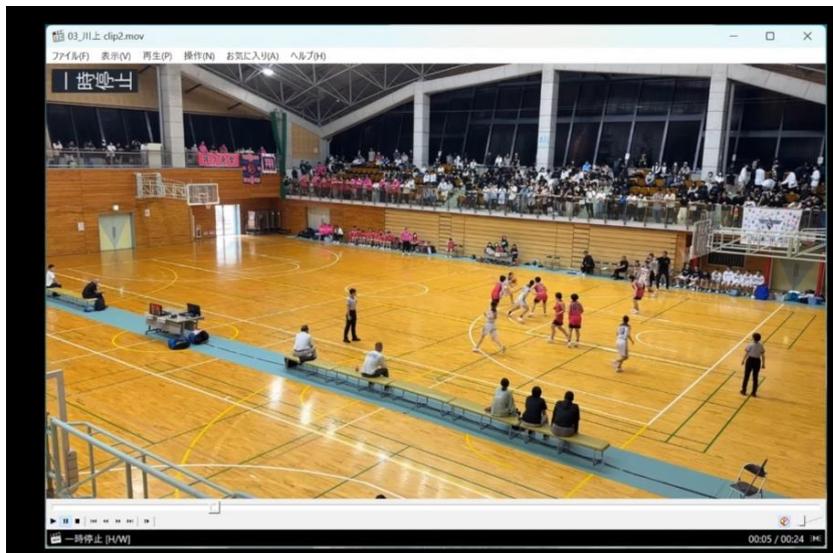


図 オンライン研修の様子

【クリップの解説】※太字は Point

【Clip1】

- ・トランディションでCサイドからドライブへ。
- ・カバーのディフェンスをLがコール。(Cノーコール。)

〈関口氏より〉

- ・以前クロスコールと言われていたケースだが、メカニクスの変化によってリードがコールするべきものになった。
- ・CとLで分業できるようにしたい。
- ・ダブルホイッスルになったらどちらが先かコミュニケーションをとる。

【Clip2】

- ・ペイントエリアのヘルプディフェンスのブロック・チャージのケース。
- ・Lにおいてアクティブなマッチアップがなかったのでチャージングをコール。
- ・Cは我慢できたが、自分がCだったらジャストでコールしてしまうかもしれない。

〈関口氏より〉

- ・Cは良いアングルをもっているが、ヘルプディフェンスが長くみていられるのはLのシングルコールで収められたのは良かった。

【Clip3】

- ・ヘルプディフェンスがスライドしてコンタクトを起こしている。
- ・メカニクスが変わる前のゲーム。
- ・CとLのダブルホイッスルになった。

〈関口さんより〉

- ・ヘルプディフェンスはペイントエリアだけではない。
- ・新しいメカニクスでは、リードがコールするもの。

【Clip4】

- ・ペイント内のドライブで、カバーディフェンスの側方からコンタクト。
 - ・アングルが取れず、リードから判定できなかった。
- 《受講生の意見》・・・リードがルーズしてアングルを変えてみる、ペイントに近づく。

〈関口氏より〉

- ・Lのポジションが遠く、距離があるとアングルが取れず、プレイに参加できなくなる。
→選手との距離が遠いと判定（気持ち）が薄らいでしまう。
- ・ボールがトップにある場合はクローズダウンポジションにいる。
- ・コーナーに行ったら体を開いて、見ている事をトレイルに伝える。

【Clip5】

- ・Cサイドからのドライブで、プライマリーはLでCがレイトコール。
- ・POCはプッシュ。
- ・白が負けていて、エースのプレイヤーだったのでコール。

〈関口氏より〉

- ・「負けている」、「エース」は考えずシンプルにコール。
- ・ディフェンスがイリーガルか、リーガルかはどちらとも取れる。
→ノーマルバスケットプレーでリーガルなブロックと判定するのか、ディフェンスがA地点からB地点に飛んでコンタクトが起こり残念ながらファウルなのか、ゲームレベルに応じた判定をしていくことが大切。

【Clip6】

- ・トランディションからのドライブ。
 - ・スライスアングルを取ろうとしたが、コンタクトが起こった時にステイできていなかった。
- 《受講生の意見》・・・Lは素早くでセットアップポジションに入る事でステイして、レフリーディフェンスができる。Cはセカンダリーでセンターサイドのディフェンスがどんな形でプレイに参加するかを見たい。

〈関口氏より〉

- ・アングルを取りにくい失敗が、無駄な動きがなくなっていくのでトライする。
- ・マッチアップがないシチュエーション。
- ・オフェンス側に目がいっていないか。
- ・後ろに下がる事でプレイから気持ちが遠ざかってしまう。
- ・「こんなプレイは無くしていこう」というメッセージ的な笛を入れていく。
→飛んでいるプレイヤーにコンタクトを起こすこと。（側面）

【Clip7】

- ・ブロック or チャージのケース
- ・頭を打つなどのインパクトが大きいプレイだった。

〈関口氏より〉

- ・1つ前のプレイのショットの触れ合いがノイズになっているのではないか。
- ・コールザインパクト。→2人以上倒れるケースは必ずコールをする。

【オンライン研修の受講生感想】

- 事前研修により映像を通し、学びや課題を見つけられた。
- ヘルプディフェンスに関して、様々な現象を確認しながら指導して頂けたから。また、実用性の高い講習であった。
- 映像クリップを用いてディスカッションできたことや分析ができて良かった。
- ヘルプディフェンスに対するケースをいろいろ想定できて参考になった。
- 関口さん、玉木さんから貴重なお話をいただきましたし、仲間のレフェリングを見て勉強になることが多かった。
- クリップ映像について、丁寧に解説やアドバイスをいただけて、研修会当日に生かせたと思うから。
- 今回のテーマがヘルプディフェンスということでリードのアングルの取り方を徹底的に教えてくださり非常に参考になり、このリードの動き方はヘルプディフェンスだけでなく様々なシチュエーションにも対応できると思うので実践で活用したいと思った。
- ヘルプディフェンスというテーマについて、受講生から提出されたクリップを細かくみて頂き、それぞれのケースでの見方を丁寧に教えて頂いた。
- お忙しい中、講師の方々にはお時間を作っていただき講習していただいた点や私たちのクリップに丁寧に説明をしていただいたこと。
- 実際に映像を取り上げていただき、多くの方の意見や考え方、講師の助言などをいただけて充実した時間となった。
- ヘルプディフェンスがテーマでしたが、その他にもリードのポジションアジャストについて学びを深められた。
- 多くのヘルプ DF の映像を見ることができ、それに対して様々な意見が出たり考えたりすることができた。
- 当日仕事により直接参加することが出来ませんでした。録画を視聴させていただきヘルプディフェンスに対する解像度を高めて実技に臨むことができた。
- クリップを添えて研修会に臨んだこともあり、見直すこともできた。また、ヘルプディフェンスとプライマリーで迷っていたことを教えていただけたのもとても参考になった。地区大会等のクルーにも共有していきたい。

オンライン研修の満足度を教えてください
19件の回答

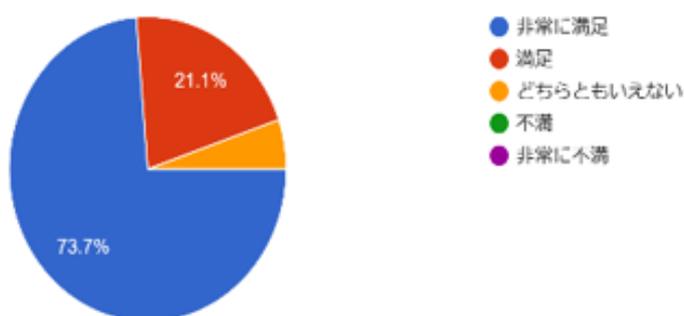


図 オンライン研修終了後アンケート結果

※「どちらともいえない」はオンライン研修不参加の方

II. 実技研修

【研修内容】

- 受講生にて県総合選手権大会の試合を担当。
- 試合後、映像を見ながら講師よりアドバイスを受ける。



図 研修ゲーム終了後 IR とのミーティングの様子

【実技研修の受講生感想】

- 2日間の研修では、1日目に課題と学びを、2日目にチャレンジと新たな発見をすることができた。
- プロを指導することもあるインストラクターにお越しいただき、丁寧な御指導をして頂けた。
- 実際1ゲーム見ていただき、IRからコメントをいただけて本当に有難い。ゲームコントロールの重要性、インテンシティーが高くなる要素、そこへの対応などコメントをいただき勉強になった。
- 自分は腰のケガで今回実技はできませんでしたが（急ぎょ多くの方にご迷惑をおかけしてしまいました）が、皆さんの実技を見られて、その後の研修会にも参加し講師のお話を聞かせていただくことができたので非常に満足です。自分が実技をできればもっと良かった。
- 研修テーマのヘルプディフェンスの他にも自身の課題についても丁寧にご指導していただき、今後の活動により一層前向きに取り組めると思った。
- 講師の方による的確なご指導、これからのスキルアップに必要なポイントを教えていただくと同時に、今回担当したゲームから自分のこれからの課題がより明確になった。
- 自分の長所とこれからの課題について講師の方よりアドバイスをいただいて、次につながる充実した研修会になった。自分の映像を何回も見返して主観と客観の違いを埋めていきたいと思う。また、自分の試合だけでなく、他のクルーの試合の研修会も公聴しとても参考になった。
- 丁寧なご指導に感謝です。講師の先生から、細かいプレイの判定に限らず、ゲームをみていく上で総合的に必要とされる能力について教えていただき、今後のレフェリー活動に活かせることを詳しく教えていただいた。

- 継続的に来県していただき、一貫したご指導(助言)をしていただき、これからの方向性が見えてきた。
- 2 試合とも研修を受けさせていただき、今の自分に足りないところが露骨に現れる試合でした。たくさんご指摘いただき、今後の試合もしっかり目的を持って取り組んでいきたいと思う。
- 試合を見ていただき、良かった部分も今後の課題の部分も振り返りができたことはよかった。コートに立っている時に気づかなかった部分を IR を通して気づくことができた。自分がどうしていきたくかを強く持ってクルーと協力をして試合に臨むことが大切だと感じた。また、研修会のテーマをクルーで共有して試合に臨めた。
- 全体としての課題や個別ケースについて解説いただき今後の改善点を見つけることができた。欲を言えばもう少し時間をいただいてケースやメカ、視野の当て方等も更に深く教えていただきたいと感じた。
- POC について説得力のあるプレゼンをすることと、プレイを長くとらえ分析することが今の自分の課題であるがそれを丁寧に指摘していただき、コツ等も記憶が新しい中で教えていただけただけなのがよかった。

実技研修の満足度を教えてください

18 件の回答

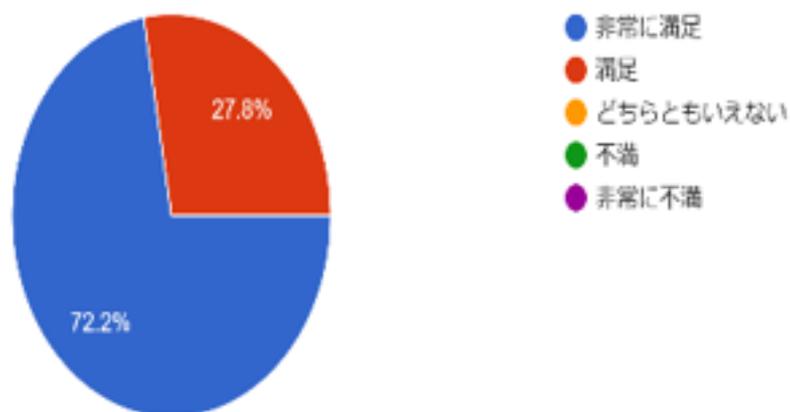


図 実技研修終了後アンケート結果

10 研修会を終えて

【受講生の感想】

- 今回の研修会に協力してくれた講師の方々はもちろん、研修会について計画や準備をしてくれた審判委員会の皆様に感謝申し上げます。いろんな準備に協力できず、土曜日の研修や懇親会にも参加できなかった後ろめたさからか、せっかくの研修会なのになんか方と積極的にコミュニケーションを取ることができなかったことを反省している。その辺も自分の課題の一つなので次に活かせるようにしたいと思う。
- 関口さん、玉木さんにお越しいただけたという大変ありがたい時間だった上に、県内の皆さんのレフェリングを見て勉強することができて実り多き2日間でした。事前から様々な面でご準備いただいた皆様にも感謝です。ありがとうございました。
- 懇親会も含め色々な方の貴重な意見や取り組む姿勢等、まだまだ自身の未熟な部分が大きく浮き彫りになったと思う。
- ヘルプディフェンスというテーマはありましたが、ゲームの中でも誰がヘルプディフェンスでマッチアップディフェンスなのかを見極め、捉え続けることができるように意識が高まってきた。それらをもとに、より明確な判定に繋がることができるようまた精進して参ります。
- ほかの受講生の研修ゲームを隣で見させていただいたり、疑問に思うことがあった際は嫌な顔をせずにご答えて下さったり、懇親会で講師の方と様々な話題についてお話できたことが非常にありがたかった。今後も、このような機会を得られたらと思う。
- 講師の方々にはお忙しい中、オンラインや対面での講習をしていただきありがたかった。また、自分がこれからどういう面を意識して取り組んでいけばいいのか見えてきたという点でありがたかった。このような研修を企画・運営して下さった審判委員会に皆様に感謝いたします。
- 自分の思っていることを素直にシンプルに表現していくことの大切さを感じた2日間であった。足りない部分や弱い部分がたくさんあるので1試合ごとにしっかり目的を決めて取り組んでいき、少しずつでも成長していきたいと思う。充実した時間をいただき、ありがとうございました。
- 自分の強みであるところは継続していき、課題の部分は振り返りをして次にはできるようにしていきたい。審判として試合を担当する上で、選手や試合にあとのりになるのではなく、自分たちどうしていきたいかをはっきりさせる。選手に正當にプレーしてもらうためにも選手やチームの特徴を捉え、見たものをシンプルに判定していけるようにしたい。そのためにも、クルーとコミュニケーションをとり、情報共有をして試合に臨む準備をしていく。IRの方々をはじめ、いろんなこととお話しできたのでよかった。
- Bリーグを担当しているインストラクターの方に直接指導いただける機会は滅多になく、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今回いただいた課題を来年までに少しでも改善できるよう努めていきたいと思う。
- 遠方から来てくださった講師の方や研修会を企画し割り当てや注意事項なども丁寧に準備して下さったことに感謝しております。この研修で学んだことを他の大会の審判員にも伝えつつ、自分のレベルアップに生かしていきたい。また、『審判員は見られている』というのを改めて考える必要があるなと感じた。プレゼンだけでなく待ち時間や振る舞い、言葉等も気をつけていきたい。

(本県重点審判員より)

【竹内 健司】

事前のオンライン研修では受講者のクリップを端的かつ、分かりやすく説明をしていただきありがとうございました。「選手との距離（判定する距離）が遠くなると判定が薄らぐ」という言葉が印象に残りました。今までのゲームや今回の研修ゲームでも、選手との距離が遠くなってしまふことがいくつかありました。ヘルプディフェンスの捉えるためのポジションアジャストを改めて実技研修で工夫したり意識したりすることができました。2日間の実技研修の中で細かく、丁寧にアドバイスをいただき本当にありがとうございました。

研修テーマとは少しそれますが、クルーチーフとしてゲームコントロールの重要性、クルーの意見を尊重しクルーの思っている意見を吸い上げ、アイデアを出し合い、ゲームにアジャストすることが重要だと準決勝を担当して痛感しました。また、インテンシティーが高くなる前に未然に防ぐことやインテンシティーが高くなった時に3人で乗り越えていかねければならないので、クルーチーフとして危険なプレイ、インテンシティーが高い選手等、クルーの仲間へ意識づける声掛けや現場での判定がまだまだ自分には欠けている部分だと思いました。

今回のテーマ「ヘルプディフェンスレフェリング」でした。リードの位置取りやプレイの見方、プライマリー等、課題も明確となり様々なゲームでチャレンジしていきたいと思います。また、タフゲームやゲームコントロール、インテンシティーコントロールが必要なゲーム吹き、クルーチーフとして自分の意見を持ち、対応したり意見を求められたら応えたりして存在感あるレフェリーを目指していきます。有意義な研修会となり本当にありがとうございました。

【平澤 和弥】

講師の皆様、本研修のために県内外から講習生のためにご足労いただきありがとうございました。今回の研修会を通して、自身の課題に対するアドバイスや疑問の解消を行うことができました。映像によるディスカッションでは、様々なパターンの分析を行うことができ、自分の中に新たな知識をインプットすることができました。また、様々な方たちのクリップ映像から自身にはない新たな視点から映像の分析を行うことができたり、新たな発想を身に着けたりすることができました。実技講習では二日間 IRの方に入っただき、客観的に自身とクルーのレフェリングを評価いただけました。審判の講評を通して新たな発見や課題、今後の取り組み方が明確になる良い機会となりました。全体を通して、審判の上達を目指す志の高い方たちとともに、トップリーグを担当される審判・IRの方々に評価していただくことのできる貴重な機会を設けてもらい、大変うれしく思います。また、長野県内でともに努力し続ける方たちと講習会を受講できたことによって、皆さんのもつ強みや弱み・課題を共有することができ、それらを通して自身の力になげることができた講習会であったと思います。この講習会を毎年受講させていただけることを当たり前と思わず、敬意と感謝の心を持ち、今後も参加したいと思える素晴らしい講習会でした。

【関 凌郁】

今年度もお忙しい中インストラクターの皆様には長野県にお越しいただき、実りある研修をしていただいたことに感謝申し上げます。オンラインの事前研修では、普段悩んでいることに解説やコメントをいただくことができゲームに良い準備をして臨むことができました。研修会1日目のゲームは、判定が後追いになり、ゲームをリードするということができず、CCとしてゲームを任せてもらっているということをコートで表現できませんでした。ゲーム後に、プレゼンを工夫すること、的確にPOCを示すこと、良いアングルで見えているクルーにあずけることをアドバイスいただき、CCとしてコートで表現するための要素を教えてくださいました。前日のアドバイスを受けての2日目のゲームでは、前日よりコートで自信を持って判定することができたと感じました。また、研修のテーマである「カバーディフェンス」について、事前研修と同じような現象が起こり対応できたというケースもありました。

CCもっとゲームをあずかり、クルーのことも大切にできるよう今後この研修会を生かしていきたいと思います。失敗しながら成長していけるよう今後も1試合ごと丁寧にゲームを吹いていきたいです。本当に充実した研修をありがとうございました。



図 講師と研修生で写真撮影